

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300212		
法人名	社会福祉法人 こもはら福祉会		
事業所名	グループホーム新		
所在地	三重県名張市新田2940番地一6		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町提出日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigvosvoCd=2491300212-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成29年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者とそのご家族一人ひとりの思いを大切に、心身の健康状態が良好に保てるよう日常的に良く関わり、その人らしさを尊重した支援をしている。ご家族には健康状態の変化や、日々の暮らしの中での出来事をきめ細かく報告し、信頼関係を築けるようにしている。また建物は自然の光がたくさん取り込める作りであり、天井も高いために、明るく開放的なリビングとなっている。中庭はウッドデッキで開閉式ドームも有しており、多機能ホームとの合同行事や、地域のボランティア訪問など多目的な活動の場として有効に活用できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲の雑木林から野鳥の声が聞こえる、静かで自然豊かな環境の中で、一人ひとりの個性を活かした支援が行われている。多機能ホームが併設されており、日々交流しながら連携を図っている。運営推進会議も定期的開催され、行政・地域住民に、理解と協力を得られる体制作りにも努めている。家族の協力を得て、馴染みの場所や季節の花見に出かけ楽しんでいる。代表者・管理者は、日頃から職員の意見に耳を傾け、運営に反映させている。職員は理念「たくさんの笑顔、少しの悲しみ、小さな怒りを大切にします。」を実践に繋げ、利用者・家族と信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の見やすい所に掲示を行い、月1回のケア会議に内容を確認し理念を共有している。職員一人ひとりに理念に沿った目標を提出してもらい、より具体的に実践できるよう啓発している。	職員の意見を聞いてつくった理念を、目につく場所に掲示し、出勤時や会議に確認し、意識付けをしながら共有している。一人ひとりの個性を大切に、それぞれの方に合わせたサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員の案内と協力があり、地域での催し物に参加したり、地域に出ていく機会を大切に外出の機会を持っている。併設の多機能利用者との交流もあり、地域住民も訪ねて来られる。	民生委員の協力を得て、地域市民センター祭等の地域行事に参加している。また、日常的に近隣住民から野菜や花をいただいたり、併設の多機能ホームと一緒に、地域ボランティアや保育園児との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた活動としては家族介護教室を開催、認知症の理解について学習会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議では、利用者状況やサービス内容などの報告を行い、情報交換を行い意見を参考にしている。	利用者・家族・民生委員・地域包括センター・市高齢障害支援室・まちの保健室職員の出席により、偶数月ごとに6回開催されている。事業所の状況や取り組みの報告を行い、出席者からの意見や提案をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が運営推進会議には出席しており、情報交換を行い、必要時には文書で連絡をとっている。介護相談員の訪問も定期的にある。	役員と管理者が市担当者を訪問したり、文書で連絡を取り合う等、協力関係が築かれている。介護相談員が定期的に来訪したり、包括支援センター主催の研修会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束廃止 事故 虐待防止対策委員会が設置されており、3ヶ月ごとの委員会に出された意見を共有し、ケア会議で学習する機会を設け、身体拘束をしないケアを実践している。	法人内研修やケア会議等で学習し、身体・言葉の拘束の弊害について理解し、身体拘束をしないケアを実践している。帰宅願望のある利用者には、寄り添い見守りながら、玄関に鍵をかけない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に法人内の委員会や研修に委員や職員が参加し、会議の内容を職員に伝達している。言葉の虐待などもケア会議で管理者が提案、学習する機会を設け、全職員に認識を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの利用調整を関係機関と協力している。必要時には後見人に本人の日常生活の状態を報告し、連絡調整も実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に、理解しやすいよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から連絡を密に行い、外部機関情報を重要事項説明書に明記し、事業所内にも掲示をしている。	運営推進会議や面会時に、利用者の様子を詳しく伝えている。気軽に話し合える雰囲気づくりに努めながら、家族から意見や要望を聞いている。広報誌「新だより」を発行し、行事や日頃の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見に耳を傾け、個人面談や会議で職員が意見を言える機会を設けている。	毎月の会議・年間事業計画時に職員の意見や提案を聞いている。年1回個別面談を実施し、職員の意向を聞く機会を設けている。日頃から職員の意見に耳を傾け運営に反映させている。	代表者や管理者は、地域密着型サービスとしての運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、出された意見や提案を運営に反映させ、さらに質の向上につなげる取り組みがなされることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度や、異職場体験の希望調整、法人内異動希望調査、研修の充実、互親会による親睦旅行など、働きやすくやりがいのある職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加を積極的に促し、資格取得に向けての啓発を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と意見交換するプロジェクトを立ち上げ、他の事業所職員と交流を図っている。また市主催の多職種連携会議や研修に参加することで、学習、情報収集するなど、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と面接し、直接話を聞くことで、ニーズの把握に努め、一つひとつ丁寧に答えることで安心して頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に話を聞くことで、家族としての思いや考えを理解することに努め、関係づくりにしながらニーズの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の相談時に何を求め何が必要かを的確に判断し、事業所としてできる事を伝え、他の事業所情報も開示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活することを念頭に置き、一方的な関係にならないよう、常に寄り添い思いをくみ取ることを心がけ、お互いを大切にする支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所ができることを的確に把握して頂き、家族の支援が必要な時、様々な場面で本人に一番適切な支援ができるよう、日ごろから連絡を密にし、協力関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴、家族歴を家族や本人から聞き取り、行きつけの美容院へ行けるよう援助したり、家族の面会時、その他の親族にも面会を呼びかけるなど本人の思いを伝えるようにしている。また面会に来やすい雰囲気づくりを心がけている。	家族の協力を得ながら、行きつけの美容院に行ったり、好きなお菓子を差し入れてもらう等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。併設の多機能ホームとの交流で、新しい馴染みの人や場所が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれが互いに認め合える関係を作れるよう席の配慮や言動に注意を払いながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も必要な方には家族に電話や手紙にて連絡を取り、状態を聞き取ったり、本人の様子を伺いに行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から、以前の生活歴聞き取りすることにより、本人の思いを引き出し本人の意思を尊重した支援をしている。	日常の会話や生活の様子からそれとなく確認したり、面会時に家族から聞き取り、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は工夫しながら聞き取り、本人の立場に立って検討している。一人ひとりの思いを引き出し、意思を尊重した支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、以前利用していた事業所からの情報を聞き取り、これまでの生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床就寝の時間もそれぞれであり、一人ひとりの生活スタイルで過ごされている。身体機能の変化がある場合は、支援の内容を変更し適切な援助で対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、以前利用していた事業所からの情報を聞き取り、これまでの生活スタイルの把握に努めている。担当職員等と情報を共有し身体機能や生活状況に合わせて、現状に即した介護計画を作成している。	月1回の職員会議(ケア会議)で、個々のケース記録を基にケース検討会を行い、状態の変化が見られたらモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。家族・医師など関係者の意見を反映させた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や連絡ノートでの情報の共有に努め、パソコンにて個別記録を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な支援を適切に判断し、家族に連絡し臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に配慮しながら本人のできることを見極め意識して支援している。地域ボランティアでは園芸福祉の定期訪問、音楽の演奏や合唱団などの訪問や、コンサートに出かけることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医に継続して受診できるよう配慮し、必要な情報提供や、受診介助が必要な場合は医療機関に同行している。	1名が事業所の協力医、以外は入居前のかかりつけ医を継続受診している。受診は家族対応であるが、家族の協力が得られない場合や情報提供や受診介助が必要な場合は、職員が同行している。協力医は往診も可能であり、希望があれば訪問歯科医の受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には利用者の状況報告を適宜行っており、必要な看護を適切に行えるよう連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、正確な情報提供を行い、治療が速やかに進むよう援助する。また治療が終了し健康状態が回復した時は、速やかに施設に受け入れることを家族や医療機関にも伝える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明し家族の同意を得ている。終末期の支援マニュアルは整備しているが、まだ終末ケア実践のケースはない。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。「重度化や終末期への支援についてのマニュアル」は整備されているが、看取りの事例は現在のところまだない。重度化した場合は、本人・家族等と話し合い、同一法人の特養にて対応をおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの確認や、救急救命講習の受講を進めている。施設内研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの周知を行い、消防署の協力により火災(昼・夜)を想定した避難訓練を多機能ホームと合同で年2回実施している。緊急時には隣接施設からの応援体制を整えている。	消防署立ち合いの下、年2回、併設多機能ホームと合同で、昼夜間を想定した初期消火・避難誘導・ケガ人確認等の訓練を行っている。同一法人の隣接事業所の応援体制も整備されており、防災マニュアルや緊急連絡網、役割分担表が整備され全職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩として尊重、丁寧な言葉遣いを心がけ、他者が聞いても不快感のないように、研修や会議を通じて意識を統一している。また気持ちのある言葉かけを大切にしている。	利用者は人生の先輩として、一人ひとりの人格を尊重し支援している。トイレ誘導・居室入退室時の声かけに配慮しながら、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。他者に不快感を与えないように、研修・会議等で話し合い意思統一を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的ケアの中で対話を多くし、利用者が意思を表出しやすい雰囲気づくりをしている。その中で自己決定の支援を念頭に置き思いを引き出すように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自分の時間や空間を持てるように配慮し、一日の過ごし方も本人の意思を尊重し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容、馴染みの美容院への支援を行っている。家族には外出用の洋服や、お気に入りの洋服など持参いただくよう依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には準備や片づけを手伝ってもらうようにしているが、利用者の状態が重度化しているので、できる方が少なくなっている。楽しく食事ができるよう、食材の説明や季節感のある食材を取り入れたりしている。	食材・調理は業者に委託し、温めや盛り付けは職員が行っている。利用者の状況に合わせて、刻み・とろみ等、形態を変えて対応している。行事食には季節の食材を取り入れ、食事を楽しむことができるよう工夫している。食器は使い慣れた物を持ち込み使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供しており、一人ひとりの好みや体調に配慮しながら調理や味付けに工夫をし、水分もゼリー状にするなど内容も工夫し、個々の好みに合わせ飲み物の種類も多く準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けと必要な援助ケアを実施している。ご家族の同意のもと訪問歯科の口腔ケアと訪問診療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、また定期的トイレ誘導も実施、利用者全員がトイレで排泄している。	現在、2名がトイレでの自立排泄以外はリハビリパンツとパット併用で、定期的にトイレ誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンや能力を把握して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類を多く取り入れた献立であり、水分補給も個々の好みや栄養状態に応じて提供できるよう、栄養補助飲料を取り入れたり、嗜好に応じて希望の飲み物を提供することで十分な水分をとれるよう工夫をしている。体操や散歩の誘導も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施、その日の体調などを考慮して決めている。入浴時間はある程度決めているが、希望や状況に合わせてできる時は臨機応変に対応している。	利用者の希望やその日の状況に合わせて、一人週2～3回、入浴支援を行っている。毎回お湯の入れ替えを行う。入浴拒否される方は言葉かけを工夫して入浴してもらおう。入浴剤や柚子を入れて楽しんでいる。介助者は出来るだけ希望に添えるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を大事にし、夜間以外でも自室やソファで休めるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの担当者が服薬の管理を行い、適切な支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、これまでの経験や生活スタイルを継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い時期には施設周辺に散歩に出かけたり、季節を感じてもらえるよう四季に合わせて外出行事を設定している。馴染みの美容院や、カラオケ、地域の行事やコンサートなど出かける機会を多く持てるよう支援をしている。	気候の良い時期には、事業所周辺の散歩をしたり、駐車場でお茶を飲みながら季節を感じている。また、カラオケやコンサートに行き音楽を楽しんだり、家族の協力を得て、事業所のバスで外食・季節の花見・ドライブに出かけている。出来るだけ戸外に出かける支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金額ではなく少額な金銭を所持してもらい、買い物などの外出時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時や希望時に家族と話ができるように支援を行っている。手紙やはがきが届いた時は、自身で読めない方には代読をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設周辺は雑木林があり、自然と四季を感じられる環境にある。建物は光を多く取り込めるように設計されており、リビングには観葉植物や季節の花を常に飾っている。状況に応じた音楽を流すことでゆったりとした時間を過ごせるよう配慮している。	共用空間は、明るく利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。居間兼食堂は天井が高く、大きな窓から明るい光が射し込み開放的である。テレビやソファが配置されており、利用者が寛げるようになっている。観葉植物や季節の花を飾ったり、壁には絵画や利用者と職員が作った季節の貼り絵を掲示して、季節感や生活感を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには小ささまざまなソファを設置しそれぞれが座りやすい移動しやすい環境づくりに努め、気の合った利用者同士がくつろげる空間づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持参してもらったり、自宅に近い環境づくりを行っている。仏壇を持ち込まれている方もいる。	事業所のベッド、エアコンが設置され、テレビ・家具・仏壇が持ちこまれ、家族写真・手作りの作品を飾るなど、利用者の好みの部屋になっている。各居室に加湿器が設置され、湿度管理をして健康に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは広く、段差もなく配慮できた作りになっている。全体も見やすい作りになっており「わかること」も理解しやすい。		